

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進	施策	② 観光交流、経済交流等の推進	
			施策の小項目名	○学術・文化・地域間交流等の推進	
主な取組	国際性に富む人材育成留学事業			実施計画記載頁	345
対応する主な課題	③歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながらともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流や地域間交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
国際性と個性を涵養し、グローバルに活躍できる人材の育成を図るため、高校生をアメリカ、欧州、アジア、オセアニア、南米諸国へ約1年間派遣する。		100人				
実施主体		県				
担当部課【連絡先】		教育庁県立学校教育課 【098-866-2715】				
		高校生の国外留学支援				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名	国際性に富む人材育成留学事業						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ソフト)	委託	146,438	187,047	176,537	194,372	210,000	166,488	一括交付金(ソフト)	○H29年度: 高校生80名を約1年間、大学生等19名を約1年間、海外へ派遣した。 ○H30年度: 高校生85名を約1年間、海外へ派遣する。
予算事業名	—						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
		—	—	—	—	—	—		○H29年度: ○H30年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	留学派遣者数				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		95人	99人	93人	94人	99人	100人	99.0%	210,000	順調
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	進捗状況の判定根拠と取組の効果 高校生については計画通りに派遣した。大学生等については、1名辞退があったが、他の派遣生については派遣計画通り、派遣しており、取り組みは順調である。 本派遣を通して、国際性に富む人材育成が図られている。		
	—	—	—	—	—	—				
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度 of 取組改善案						反映状況				
①【高校生】 ・短期研修の充実したプログラムに参加することで、留学に対する意欲の拡大が図られるため、短期研修参加者に対し、長期留学にも応募するよう促す。 ②【共通】・プロポーザルの企画提案書へ緊急時対応についても明記させ、派遣中から綿密な報告・連絡・相談を行う。						①【高校生】 ・3月末に行われる合同報告会(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業と合同)の際に、長期留学者からのビデオメッセージ等を紹介したり、長期留学の体験講話などを紹介し、長期留学への応募を促した。 ②【共通】・委託業者と契約締結段階から緊急時対応への課題共有を図り、派遣期間中も報告・連絡・相談を行った。				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・諸外国においては、意思表示することで物事が解決が図られる。また、留学先で授業が理解でき、他の生徒や先生とコミュニケーションが取れる英語力が必要であることから、派遣する高校生の語学力の向上が必要である。

【大学生等】

- ・派遣内定後、留学を希望する大学への合格が得られないための派遣辞退があった。
- ・平成29年度より募集選考を停止した。

○外部環境の変化

- ・国際情勢の変化等による治安上の問題がある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・派遣生において新しい環境への適応や外国語でコミュニケーションを図ることに対する不安があるため、短期研修と連携したステップアップシステムの構築が必要である。

4 取組の改善案(Action)

- ・短期研修の充実したプログラムに参加することで、留学に対する意欲の拡大が図られるため、短期研修参加者に対し、長期留学にも応募するよう促していく。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進	施策	② 観光交流、経済交流等の推進	
			施策の小項目名	○学術・文化・地域間交流等の推進	
主な取組	アメリカ高等教育体験研修(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)			実施計画記載頁	345
対応する主な課題	③歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながらともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流や地域間交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
グローバルな視点を持った世界で主体的に活躍できるリーダーを育成する基礎作りを図るため、アメリカの州立大学等へ高校生を派遣し、大学生生活を体験させる。		50人派遣数				
実施主体	県	高校生をアメリカの大学へ派遣し、体験交流を実施				
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課 【098-866-2715】					

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名	アメリカ高等教育体験研修(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ソフト)	委託	34,725	38,812	39,408	38,181	35,585	36,676	一括交付金(ソフト)	○H29年度: アメリカの州立大学へ高校生50人を3週間派遣し、語学、リーダーシップ研修を通してアメリカの大学生生活を体験させた。 ○H30年度: アメリカの州立大学へ高校生40人を3週間派遣し、語学、リーダーシップ研修を通してアメリカの大学生生活を体験させる。
予算事業名	—						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
		—	—	—	—	—	—		○H29年度: ○H30年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣数				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	48人	50人	50人	50人	50人	50人	100.0%	35,585	順調	アメリカの州立大学へ平成29年7月24日から8月14日の3週間、高校生50人を派遣し、語学、リーダーシップ研修を通してアメリカの大学生生活を体験させた。スムーズな本研修実施へむけた事前研修を4回、本研修のまとめてとしての事後研修を1回実施した。
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
<p>①事前研修においては、引き続き英会話能力向上を図るための外国語講師活用、異文化理解についての研修を実施する。</p> <p>②受託業者には現地での緊急時を含めた対応・体制について、プロポーザル時の企画提案書へ明記させるとともに、実際の研修時には綿密な報告・連絡・相談を行う。</p>						<p>①外国語講師を活用し、ホームステイや現地研修を想定した英会話能力向上を図るための研修内容に取り組むとともに、前年度派遣生徒や引率教諭を活用した異文化理解を図る研修を実施した。</p> <p>②受託業者には現地での緊急時を含めた対応・体制について、プロポーザル時の企画提案書へ明記させた。また、実際の研修時には綿密な報告・連絡・相談があった。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

- ・現地研修において自ら進んで研修へ参加する意欲を育むため、事前研修ではコミュニケーションツールとしての英語力を身に付ける語学研修や異文化理解について学ばせる必要がある。
- ・研修先において現地大学での講義やホームステイ先でのコミュニケーション等を考え、英語力の高い生徒を選考する必要がある。

○外部環境の変化

- ・テロの問題等、世界各地で治安上の問題がある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・事前研修等における外国語講師を活用した語学研修の充実や異文化理解について、前年度派遣生・引率教諭による体験談から生活習慣の違い等を学ばせる必要がある。
- ・実践的な英語コミュニケーション能力をはかるため、面接試験において語学力、積極性を計る選考試験を実施する必要がある。
- ・外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、委託先の現地事務所等との連携を図る必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・現地研修をより深い学びへと繋げるため、ホームステイや学校生活を想定した英語運用能力をより高める研修や異文化理解についての事前研修を実施する。
- ・実践的な英語コミュニケーション能力を測る面接試験内容の構築。
- ・受託業者と現地での緊急時を含めた対応・体制について、綿密な報告・連絡・相談を行う。

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣数				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	25人	25人	25人	25人	25人	25人	100.0%	12,826	順調	オーストラリア・ビクトリア州へH30年3月5日から3月16日の12日間、高校生25人を派遣し研究機関等の訪問、現地高校大学等での授業参加などを通して理系分野の人材育成の基礎作りを図った。また、研修効果を高めるため、事前、事後研修も行った。
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
<p>①事前研修において、派遣生、引率教諭を対象とした外国語講師を活用した語学研修や異文化理解についての研修を多く取り入れる。</p> <p>②派遣生の安全確保のために、外務省等からの情報など国の動向を注視し、派遣先の安全性を把握する。</p>						<p>①東大や筑波大大学院博士課程在籍の外国出身学生によるサイエンスイマージョン(英語で学ぶ科学)授業を取り入れるとともに、本県の歴史や文化等についての講義を取り入れた。</p> <p>②現地での緊急時を含めた対応・体制について、プロポーザル時の企画提案書へ明記させるとともに、実際の研修時の研修状況や生徒の様子等について委託業者に報告させ状況把握に努めた。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・現地での授業参加等をより高いレベルで推進する為には、派遣生徒全体の語学力及び積極性を高める必要があるとともに、引率教諭については、現地教諭とのコミュニケーションのための語学力が必要となる。また、研修内容にホームステイを含むことから異文化理解についての研修を実施する必要がある。

○外部環境の変化

・テロの問題等、世界各地で治安上の問題がある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・派遣生徒を対象とした事前研修等において、語学や異文化理解に関する研修内容の充実を図る必要がある。
- ・外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、派遣先の現地事務所等との連携を図る必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・現地高等学校等や研究機関における研修内容で深い学びへと繋がるよう、事前研修で実施している派遣生徒を対象とした「サイエンスイマージョン研修」を更に充実させる。
- ・派遣生の安全確保のために、外務省等からの情報など国の動向を注視し、派遣先の状況把握に努める。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進	施策	② 観光交流、経済交流等の推進	
			施策の小項目名	○学術・文化・地域間交流等の推進	
主な取組	中国教育交流研修(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)			実施計画記載頁	346
対応する主な課題	③歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながらも発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流や地域間交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
グローバルな視点を持った世界で主体的に活躍できるリーダーを育成する基礎作りを図るため、中国語を学んでいる高校生を中心に異文化体験や現地高校生との交流を通して、中国への更なる興味関心を高める。		20人 派遣数				
実施主体	県	高校生を中国へ派遣し、異文化体験や現地高校生との交流を実施				
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課	【098-866-2715】				

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名	中国教育交流研修(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ソフト)	委託	6,366	7,761	7,735	7,627	7,738	7,649	一括交付金(ソフト)	○H29年度: 中華人民共和国上海市へ2週間、高校生20人を派遣し、異文化体験や現地高校生との交流を行い、中国への興味関心を高めた。 ○H30年度: 中華人民共和国上海市へ13日間、高校生20人を派遣し、現地高校での授業参加、文化分野などを実施する。
予算事業名	—						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
		—	—	—	—	—	—		○H29年度: ○H30年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣数				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	20人	20人	20人	20人	20人	20人	100.0%	7,738	順調	中華人民共和国上海市へH30年3月3日～3月16日の2週間、高校生20人を派遣し、異文化体験や現地高校生との交流を行い、中国文化への興味関心を高めた。また研修効果を高めるため、事前研修及び事後研修を行った。
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠と取組の効果
	—	—	—	—	—	—				
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
<p>①事前研修等において語学や異文化理解に関する研修を4回実施し、語学の充実を図るとともに、事後研修等において、事前・本研修で学んだ語学力の達成状況を確認する目的のもと中国語検定取得を目指すなど、研修全体を通じた語学力の向上を図る。</p> <p>②受託業者には現地での緊急時を含めた対応・体制について、プロポーザル時の企画提案書へ明記させるとともに、実際の研修時には綿密な報告・連絡・相談を行う。</p>						<p>①選考試験において昨年度に引き続き中国語によるプレゼンテーションを実施し、選考時から語学能力の向上を図るとともに、事前研修においても現地での交流会やホームステイ等を想定した語学研修を実施した。</p> <p>②委託業者と契約締結段階から緊急時対応への課題共有を図り、派遣期間中も報告・連絡・相談を行った。</p> <p>③沖縄県上海事務所長の講話や上海県人会との交流会を実施した。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・現地での授業参加や交流等をより高いレベルで推進するため、派遣生徒全体の語学力を高める必要がある。

○外部環境の変化

・テロの問題等、世界各地で治安上の問題がある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・派遣生徒を対象とした事前研修等において、語学や異文化理解に関する研修内容を実施するとともに、現地大学での語学研修の充実を図る必要がある。
・外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、委託先の現地事務所等との連携を図る必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・事前研修等において語学や異文化理解に関する研修を実施するとともに、派遣生それぞれの中国語運用能力を把握し、現地研修終了後、事前・現地研修で学んだ語学力の達成状況を確認するため、各派遣生徒のレベルに応じた中国語検定取得を目指す。
・受託業者には現地での緊急時を含めた対応・体制について、プロポーザル時の企画提案書へ明記させるとともに、実際の研修時には綿密な報告・連絡・相談を行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進	施策	②観光交流、経済交流等の推進	
			施策の小項目名	○学術・文化・地域間交流等の推進	
主な取組	沖縄県高校生海外雄飛プロジェクト			実施計画記載頁	346
対応する主な課題	③歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながらともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流や地域間交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画					
		29	30	31	32	33	
沖縄とハワイ双方向において絆を深め、先の大戦によって焦土化した双方の悲惨な状態からの復興と平和、将来の展望等について、共に学び考える機会を設けることで、自国と他国の歴史や文化を真に尊重できる、21世紀の国際社会に貢献する人材の育成を図る。		25人 派遣数					→
		約25人 受入数					→
実施主体	県						
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課		【098-866-2715】		沖縄県高校生の派遣及びハワイ州高校生の受入による交流を実施		

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名	沖縄県高校生海外雄飛プロジェクト(H25・26は受入・派遣、H27以降は受入のみ)						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
主な財源	県単等	2,173	2,482	783	416	411	540	県単等	○H29年度: ハワイ州高校生10名を受け入れ、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、沖縄文化体験等を実施した。 ○H30年度: ハワイ州高校生25名を受け入れ、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、沖縄文化体験等を実施する。
予算事業名	沖縄県高校生海外雄飛プログラム(H27以降派遣のみ)						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
主な財源	一括交付金(ソフト)	—	—	9,985	9,993	9,920	9,964	一括交付金(ソフト)	○H29年度: ハワイ州へ高校生25名を派遣し、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、ハワイ文化体験、ツーリズム研修等を実施した。 ○H30年度: ハワイ州へ高校生25名を派遣し、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、ハワイ文化体験、ツーリズム研修等を実施する。

様式1(主な取組)

活動指標名	受入数				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	12人	16人	15人	12人	10人	25人	40.0%	10,331	やや遅れ	(受入)ハワイ州高校生10名を2週間受け入れ、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、沖縄文化体験等を実施した。 (派遣)ハワイ州へ高校生25名を派遣し、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、ハワイ文化体験、ツーリズム研修等を実施した。
活動指標名	派遣数				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	25人	25人	25人	25人	25人	25人	100.0%	10,331	やや遅れ	<u>進捗状況の判定根拠と取組の効果</u> 派遣に関しては計画値どおり順調であるが、受入に関しては円高の影響等ため計画値25名を大きく下回っており、事業全体ではやや遅れとなっている。 ハワイでの研修を通して、語学力の向上と異文化理解の促進を図ることができた。また、県内の高校生が、受け入れたハワイの高校生と交流し、相互理解を深めることができた。 ハワイでのツーリズム研修を通して、沖縄のツーリズムを担う人材育成を図ることができた。
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
<p>①本県の観光産業を支える人材を育成することを目指し、ツーリズム関連研修と平和学習、沖縄及びハワイの歴史、文化、伝統を学ぶ研修を実施する。</p> <p>②受託業者、ハワイ沖縄連合会、現地スタッフとのネットワークを確立し、議論の深化と情報共有を図る。</p>						<p>①委託業者との連携を密にし、ツーリズムと平和に関するワークショップの拡充によって、研修内容を充実させることができた。ワイキキでは沖縄とハワイの観光産業の比較を通じた新しいツーリズムを提案し、パールハーバーでは平和への考え方の違いについて現地職員と意見を交わすなど、研修の深化が見られた。また、ホームステイでは文化的、風俗的相違点や共通点を発見することができた。</p> <p>②ハワイ沖縄連合会と現地再委託業者との話し合いを重ね、座学研修会場や移動手段の見直し、またツーリズム研修講師を沖縄関係者に変更することにより、プログラムの改善・拡充を行った。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

- ・(受入)ハワイ州から来沖する高校生の日本語力に差異があるため、沖縄の文化や歴史をより理解してもらうための受入プログラムの必要がある。
- ・(派遣)観光立県を標榜する本県の観光産業を担う人材を育成を目的の1つとしている。

○外部環境の変化

- ・(受入)平成25年ごろからの円高傾向により、ハワイ州高校生の参加者数に影響が出た(H24年度21名→H25年度12名→H26年度16名→H27年度15名→H28年度12名→H29年度10名)。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・(受入)ハワイ州高校生に沖縄の文化や歴史をより理解してもらうため受入プログラムの必要がある。訪問や見学だけでなく、文化体験や語り部による平和学習に通訳をつけるなどプログラムの改善が必要。
- ・(派遣)座学だけでなく実地研修を充実させるなど、観光産業に関するプログラムを拡充する必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・受け入れについては、体験型プログラムの導入により沖縄の文化学習をより充実させるとともに、これまで行ってきた平和資料館等の見学の際に、新たに平和に関する講話を行う。
- ・ハワイ沖縄連合会、委託業者、現地スタッフとの連携強化を図り、受入人数の増加を目指す。
- ・派遣については、観光産業について座学だけでなく実地研修の充実を図る。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進	施策	② 観光交流、経済交流等の推進	
			施策の小項目名	○学術・文化・地域間交流等の推進	
主な取組	芸術文化国際交流(書道)(グローバル・リーダー育成海外短期事業)			実施計画記載頁	346
対応する主な課題	③歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながらともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流や地域間交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
本県の高校生と台湾の高校生の文化交流を通して相互理解を深め、本県及び外国の文化の振興に寄与するとともに、本県高校生の文化活動の充実・発展に資する。		20人 派遣人数				
実施主体	県	高校生を台湾へ派遣し、文化交流を実施				
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課 【098-866-2731】					

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
							当初予算額	主な財源	
グローバルリーダー育成海外短期研修事業(沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム)									
一括交付金(ソフト)	委託	2,110	3,858	4,294	3,900	3,720	4,001	一括交付金(ソフト)	○H29年度: 書道分野で活躍する高校生20名を台湾へ派遣し文化交流を実施した。 ○H30年度: 書道分野で活躍する高校生20名を台湾へ派遣し文化交流を実施予定。
予算事業名									
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
							当初予算額	主な財源	
-	-	-	-	-	-	-	-		○H29年度: ○H30年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣人数 (国際交流事業への派遣者数)				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		20人	20人	20人	20人	20人	20人	100.0%	3,720	順調
活動指標名	—				H29年度					
実績値	—	—	—	—	—	—				
活動指標名	—				H29年度					
実績値	—	—	—	—	—	—		進捗状況の判定根拠と取組の効果 派遣人数について、計画値20人に対し、実績値20人となった。台湾での交流で書の文化に対する理解がより深まった。 外国との文化の違いやコミュニケーションをとるためにこれから英語を学ぼうとする姿勢がみられた。 実際に見聞きすることで国際的な視点から考えるようになり、研修の効果が高まった。 他国で研修した生徒の研修成果を共有することで、よりいっそう海外に対し興味関心を持たせることができた。		
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
①高文連、専門部、旅行社と密に連携を図る。 ②事前研修での語学研修を今年度の2～3時間実施から各部門とも7時間確保し、会話の充実を図る。また、現地学習、郷土学習も各4時間確保し、研修地と地元沖縄の歴史・文化の学習の充実を図る。 ③交通状況や生徒の体調配慮のため、ゆとりある日程の検討する。						①2次選考会後に4部門で昨年度の課題等について協議した。また、このときに委託業者を紹介し、日程調整等を実施できた。1月から4部門の専門委員長と今年度の課題点等を踏まえ、次年度に向けて連絡調整した。4部門の専門委員長と次年度の準備を進めている。 ②語学研修を7時間実施し、昨年度より会話の充実が図れた。現地学習等も8時間実施し、昨年度より学校交流等で学んだことを活かすことができた。 ③昨年度より日程にゆとりをもたせ負担を軽減することができた。				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・当事業を実施するにあたり、県高等学校文化連盟、専門部及び旅行社と密に連携を図り、相互理解を深め、情報の共有化と互いの役割分担を明確にする必要がある。

○外部環境の変化

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・本研修をより深めるために、事前研修の内容について更に吟味する必要がある。
- ・交流の際に必要な語学力が十分でない。
- ・本研修の成果を高めるために、派遣生徒の意識高揚に努める。
- ・交通状況等により本研修に影響が出ないようにするため、ゆとりをもった日程を組み、研修時間をしっかり確保する。
- ・事前に受け入れ現地高校等と日程調整を行う。

4 取組の改善案(Action)

- ・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図る。
- ・語学研修の内容の充実にも努める。
- ・事前研修にファシリテーターを導入し、派遣生徒の目的意識を高めより効果的な研修を実施する。
- ・交通状況や生徒の体調に配慮し、ゆとりある日程を検討する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進	施策	② 観光交流、経済交流等の推進	
			施策の小項目名	○学術・文化・地域間交流等の推進	
主な取組	芸術文化国際交流(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)			実施計画記載頁	346
対応する主な課題	③歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながらともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流や地域間交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
本県の高校生をドイツ等へ派遣し、諸外国の高校生の文化交流を通して相互理解を深め、本県及び外国の文化の振興に寄与するとともに、本県高校生の文化活動の充実・発展に資する。		54人				
実施主体		県				
担当部課【連絡先】		教育庁文化財課 【098-866-2731】				
		高校生を海外へ派遣し、文化交流を実施				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
							当初予算額	主な財源	
グローバルリーダー育成海外短期研修事業(沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム)									
一括交付金(ソフト)	委託	13,133	22,757	21,294	24,383	25,927	25,316	一括交付金(ソフト)	○H29年度:「音楽」、「美術・工芸」、「郷土芸能」の芸術分野で活躍する高校生をそれぞれドイツ、台湾、アメリカ(ハワイ)へ派遣し、文化交流を実施した。 ○H30年度:音楽、書道、美術・工芸、郷土芸能の芸術分野で活躍する高校生をそれぞれドイツ、台湾、アメリカ(ハワイ)へ派遣し、文化交流を実施予定。
予算事業名									
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
							当初予算額	主な財源	○H29年度:
		-	-	-	-	-	-		○H30年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣人数 (高校生の短期研修)				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
実績値	59人	60人	59人	60人	54人	54人	100.0%	25,927	順調	<p>音楽、美術・工芸、郷土芸能分野で活躍する高校生をドイツ、台湾、ハワイそれぞれへ派遣し、文化交流を実施した。派遣人数について、計画どおり54人を派遣した。</p> <p>3か国とも現地高校と交流を行った。また、各分野とも現地の一流の芸術家または大学教授から個別で実技指導を受けた。</p>
活動指標名	—				H29年度					
実績値	—	—	—	—	—	—	—			
活動指標名	—				H29年度					
実績値	—	—	—	—	—	—	—	<p>進捗状況の判定根拠と取組の効果</p> <p>高校生をH29は54名3カ国に派遣した。それぞれの国での交流で芸術文化に対する理解がより深まった。外国との文化の違いやコミュニケーションをとるために、これから英語を学ぼうとする姿勢がみられた。実際に見聞きすることで国際的な視点から考えるようになり、研修の効果が高まった。</p> <p>合同成果報告会で他国で研修した生徒の研修成果を共有することで、よりいっそう海外に対し興味関心を持たせることができた。</p>		

(2)これまでの改善案の反映状況

平成29年度の取組改善案	反映状況
<p>①最初の事前研修で4部門合同の宿泊研修を計画し、より一層の事前研修の充実を図る。</p> <p>②語学研修を今年度の2～3時間実施から各部門とも7時間確保し、会話の充実を図る。</p> <p>③現地学習、郷土学習も各4時間確保し、研修地と地元沖縄の歴史・文化の学習の充実を図る。</p> <p>④本研修を北半球では気候のよい10～11月に設定し、充実した研修日程と体調不良者対策等を図る。</p> <p>⑤音楽分野はオーストリアからドイツに変更することで、古典楽器指導者から現代楽器指導者からのレッスンへの改善を図り、また音楽の研修地の充実(世界3大Bといわれるベートーベン、バッハ、ブラームス)を図る。</p>	<p>①4部門合同で宿泊研修を実施することで望ましい人間関係を早い段階で構築することができた。</p> <p>②語学研修を7時間実施し、昨年度より会話の充実が図れた。</p> <p>③現地学習等も8時間実施し、昨年度より学校交流等で学んだことを活かすことができた。</p> <p>④音楽分野の実施時期を11月に実施することで体調の負担軽減等を図ることができた。また、オフシーズンのため治安も良かった。</p> <p>⑤NHK交響楽団に相当する西ドイツ放送交響楽団の一流の演奏家たちから個別指導を受けることができた。</p>



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

- ・当事業を実施するにあたり、県高等学校文化連盟、専門部及び旅行社と密に連携を図り、相互理解を深め、情報の共有化と互いの役割分担を明確にする必要がある。
- ・派遣される高校生たちの意識に温度差が感じられる。
- ・体調に無理が出ないように、ゆとりをもった日程を組み、研修時間をしっかり確保する。
- ・実技の披露だけにとどまらないよう、現地高校生とより深いコミュニケーションが取れるように、引き続き交流先の検討を行う。

○外部環境の変化

- ・現地での移動の時間帯、手段、天候により所要時間に若干変動がある。
- ・特にヨーロッパ派遣は移動時間が20時間、そして時差が8時間と大きく、時差ぼけで体調を崩す生徒がでる。
- ・受け入れ現地高校の行事の時期、台風が襲来しやすい時期、インフルエンザ流行時期や学校行事の時期等を考えて、本研修の日程を組む必要がある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・本研修をより深めるために、事前研修の内容の吟味が必要である。
- ・交流の際に必要な語学力が十分でない。
- ・本研修の成果を高めるために、派遣生徒の意識高揚に努める。
- ・交通状況等により本研修に影響が出ないようにするため、ゆとりをもった日程を組み、研修時間をしっかり確保する。
- ・事前に受け入れ現地高校等と日程調整を行う。

4 取組の改善案(Action)

- ・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図る。
- ・語学研修の内容の充実に努める。
- ・各分野におけるより効果的で治安のよい派遣先を検討する。
- ・各分野の事前研修にファシリテーターを導入し、派遣生徒の目的意識を高めより効果的な研修を実施する。
- ・交通状況や生徒の体調に配慮し、ゆとりある日程を検討する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進	施策	② 観光交流、経済交流等の推進	
			施策の小項目名	○学術・文化・地域間交流等の推進	
主な取組	海外交流拠点形成(英語立県沖縄推進戦略事業)			実施計画記載頁	346
対応する主な課題	③歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながらともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流や地域間交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
高校生の国際交流を促進するため、海外における交流拠点形成のための関係教育機関との調整を図り、視察・検証を行うとともに、学校間姉妹校締結を推進・支援する。		8地区				
実施主体 県		提携地区数				
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課 【098-866-2715】	海外交流拠点形成のため、外国の教育機関等と交流意向書を締結し、高校生の国際				

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名 英語立県沖縄推進戦略事業							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
県単等	直接実施	2,730	2,730	2,774	1,315	1,561	1,520	県単等	○H29年度: 米国モンタナ州及びカリフォルニア州への派遣生徒の視察を行うとともに、カリフォルニア州チコ郡の教育機関と交流意向書の締結を行った。 ○H30年度: 国際交流推進委員会で協議を重ねアイデアをだしながら、新規の国際交流拠点づくりを計画する。
予算事業名 —							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
		—	—	—	—	—	—		○H29年度: ○H30年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	提携地区数				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		6地区	6地区	6地区	6地区	7地区	8地区	87.5%	1,561	概ね順調
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
<p>①交流意向書を結んでいる地域と県内の高等学校との姉妹校交流締結が推進できるよう、国際交流推進委員会で協議を重ねる。</p> <p>②必要があれば学校訪問も実施する。</p> <p>③カリフォルニア州チコ教育委員会と沖縄県教育委員会で交流意向書の締結に向けて調整を続けていく。</p>						<p>①外国語担当教員対象の研修会において、国際交流推進委員会の取り組みを紹介しながら、姉妹校交流についての周知を行った。</p> <p>②複数校の校長から海外姉妹校について問い合わせがあり、国際交流推進委員会での支援体制を説明した。</p> <p>③2年間の調整を経て、カリフォルニア州チコ教育委員会と沖縄県教育委員会で交流意向書の締結を行った。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

- ・すでに交流意向書を締結している地域に対して、交流の継続について意思確認をする必要がある。
- ・新たな地域と協定締結に向けて取り組みながら、すでに沖縄県教育委員会と協定を結んでいる7地区の高校と本県の高等学校の姉妹校意向書締結に向けても重きをおくようにした。

○外部環境の変化

- ・インターネットの進化により、SNS等での国際交流が可能となり、学校現場でも独自で取り入れる傾向が見られる。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・交流意向書に基づき、生徒の研修等で派遣をする際に、効果的なプログラムが実施されているか検証を行う必要がある。
- ・国際交流推進委員会において、新規の意向書締結に向けて協議を続けていく必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・交流意向書を結んでいる地域と県内の高等学校との姉妹校交流締結が推進できるよう、国際交流推進委員会で協議を重ねていく。各種研修会等において、国際交流推進委員会について周知を図り、具体的な支援策を提供していく。
- ・新規の地域(米国以外)と交流意向書の締結に向けた取組を、国際交流推進委員会で協議を続けていく。